

■有賀長雄 国際法学者としての業績の一方、行政実務に優れ、袁世凱の顧問など多面的に活動、毀誉褒貶が多かった。

ありがながお

桜田門外変・1860＝ 大阪堀川に生れる(父長隣、母勝子の長男、共に国学に造詣が深かった)。

明治維新・・・1868＝ 8歳：

版籍奉還・・・1869＝ 9歳：

明治6年政変 1873＝13歳：

三つの内乱・1876＝16歳：大阪開成学校から選抜されて東京大学予備門に入る。

大久保暗殺・1878＝18歳：東京大学文学部第一科(史学・哲学・政治学科)入学、同級生に高田早苗・天野為之・市島謙吉・坪内勇蔵・山田一郎等がいた。フェノロサから決定的影響を受け、社会進化論を中核とする哲学を志向、

明治14年政変1881＝21歳：「哲学字彙」(井上哲次郎共著)。

新体詩抄・・・1882＝22歳：同大学第一科(哲学科)卒業、大学の編集係、同時に準助教授となり歴史を教える。

岩倉具視没・1883＝23歳：「社会と一個人との関係の進化」(「東洋学芸雑誌」)、「社会進化論」「宗教進化論」。

秩父事件・・・1884＝24歳：元老院書記官に任ぜられる。哲学会に参加。「族制進化論」「近世哲学」(ポーエンの訳)。

内閣発足・・・1885＝25歳：「西洋哲学講義」(井上哲次郎共著)「斯氏教育学」(ジョン・ノットの教育学の訳註)「文学論」「孔門哲学或門」「心理学」。

帝国大学始・1886＝26歳：「斯氏教育論」(スペンサーの訳)。**私費でドイツのベルリン大学に留学、政治哲学・欧州文明史・心理学等を学び、オーストリアのスタイン博士に就いて国法学を修める。**

国民之友始・1887＝27歳：

初の対等条約1888＝28歳：「日本現在国家哲学論」、「社会学史略」(「哲学会雑誌」)。***帰国し、枢密院秘書官兼議長秘書官を経て、総理大臣秘書官となる。**

帝国憲法発布1889＝29歳：「国家学」「帝国憲法篇」「須多因氏講義筆記」(シュタインの訳)。

帝国議会始・1890＝30歳：**陸軍大学校にて国際法の講義を担当。「大臣責任論」**、

大本教・・・1892＝32歳：農商務省特許局長参事官となる。「帝国史略」。

郡司千島探検1893＝33歳：同職を辞し、**戦時関係の内閣事務調査を囑託され、大本営詰めに命ぜられる。**

日清戦争始・1894＝34歳：第二軍司令部法律顧問として従軍する。「日本古代法積義」「万国戦時公法」。

日清戦争終・1895＝35歳：東京専門学校で国際公法、外交史の講座を担当後、渡仏。

松隈内閣・・・1896＝36歳：帰国、海軍大学、東京帝国大学で国際法等を講義する。**「日清戦役に関する国際法論」(仏文)。**

政党内閣初・1898＝38歳：「近時外交史」。**「外交時報」を発刊する。**

Bushidou・・・1899＝39歳：ハーグ国際平和会議に出席、帝室制度調査局主事を命ぜられる、また東京専門学校教授兼評議員となる。

ピアノ国産化・1900＝40歳：**東京帝国大学法学博士(学位論文「日清戦争の際起りし国際法事件の論断」)。**

田中正造直訴1901＝41歳：「国法学」。

日露戦争始・1904＝44歳：「戦時国際公法」(上・下巻)。**「日露戦争」に際し、国際法顧問として旅順攻囲軍に従う。**

日露戦争終・1905＝45歳：「満州委任統治論」。

満鉄発足・・・1906＝46歳：「保護国論」。

韓国反日暴動1907＝47歳：「大日本歴史」(上巻)。

アヲキ創刊・1908＝48歳：「大日本歴史」(下巻)。**「日露陸戦国際法論」(仏文)。**

韓国併合・・・1910＝50歳：「最近三十年外交史」(上・下巻)。

大逆事件判決1911＝51歳：「日露陸戦国際法論」。**文学博士。**

明治天皇没・1912＝52歳：***前掲2仏文著書で帝国学士院恩賜賞。「西洋歴史」(上巻)。**

大正政変・・・1913＝53歳：**内閣の政策に反対し、袁世凱の招聘により渡支、法律顧問となる。**

第一次大戦始1914＝54歳：

21ヶ条要求・1915＝55歳：「帝室制度史」(稿本)。

民本主義・・・1916＝56歳：**袁世凱死去後も引き続き憲法制度に尽力するが、**

第一次大戦終1918＝58歳：「支那正観」。

ベルサイユ条約・1919＝59歳：***失意のうちに帰国すると、フェノロサの著書の翻訳に着手、**

大暴落・・・1920＝60歳：**脱稿し、**

原敬首相暗殺1921＝61歳：**没した。**

没後、「東亜美術史綱」(上・下巻、フェノロサ原著の訳註)として刊行。